

# 再評価調書

NO. 1

事業名	街路事業	事業区間	都市計画道路 岡山松陵線 敦賀市金山～若葉町1丁目			
事業目的						
<p>都市計画道路岡山松陵線は、敦賀市街地の骨格を形成する環状道路として位置付けられている幹線道路である。しかし、一部区間が未整備で環状道路としての効果が十分に発現されていない。また、平行する市道は歩道がなく生徒が安心して通学できないなど、歩行者の安全確保が求められている。</p> <p>このため、当該区間の整備により、環状道路を構築し交通の円滑化が図られ、かつ、通学路の安全性(両側歩道設置)が確保される。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=620m 幅員 W=16.0m(2車線)</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成24年度	平成24年度	平成28年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		2,630,000	1,559,209	59.3%	1,070,791	
財 源 内 訳	国 庫	1,629,200	965,938	/	663,262	
	県 他	1,000,800	593,271		407,529	
費用対効果		1.92(総便益41.3億円 総費用21.5億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに、現地測量、調査、設計、用地買収、物件補償を進め、平成28年度から工事に着手している。				
	H30以降残事業	今後引き続き、用地買収、物件補償、道路改良工事を行い、平成31年度の完成を目指す。				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	23.7億円	26.3億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>物件調査等の結果、用地補償費の増(2.3億円)</li> <li>労務費高騰、消費税増額等(0.3億円)</li> </ul>			
完成予定年度	平成30年度	平成31年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>用地取得に不測の日数を要したため、事業期間の1年延長が必要となった。</li> </ul>			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> <li>敦賀市街地の骨格を形成する環状道路としての道路ネットワークが形成されず、交通の円滑化が図られない。</li> <li>歩行者の安全性が確保できない。</li> </ul>						
備 考						

# 再評価調書

NO. 2

事業名	急傾斜地崩壊対策事業	事業区間	杉谷地区(すぎたにちく) 福井市杉谷町			
事業目的						
<p>杉谷地区は、福井県福井市の南部に位置し、人家12戸、県道および市道を保全対象に含む最大がけ高87m、最大勾配47°の急傾斜地である。</p> <p>平成16年7月の福井豪雨時には斜面崩壊が発生するなど、斜面の風化が進んでおり、今後の豪雨時にはがけ崩れが発生する恐れがあるため、急傾斜地崩壊対策工事を実施し住民の生命と財産を保全する必要がある。</p>						
全体事業内容						
補強土防護擁壁工 268.9m 吹付法砕工 370m <sup>2</sup>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成25年度	平成26年度	平成28年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		257,000	105,350	41.0%	151,650	
財 源 内 訳	国 庫	116,375	47,880	/	68,495	
	県 他	140,625	57,470		83,155	
費用対効果		2.29(総便益5.58億円 総費用2.44億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまで調査、設計を進め、平成28年度から工事に着手し、平成29年度までに補強土防護擁壁工77.0mが完成している。				
	H30以降残事業	今後引き続き、補強土防護擁壁工、吹付法砕工を進め、平成31年度の完成を目指す。				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	2.6億円	2.6億円	変更なし			
完成予定年度	平成31年度	平成31年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
今後の集中豪雨により斜面崩壊が発生し、急傾斜地に面している人家等に多大な影響を与える恐れがある。						
備 考						

# 再評価調書

NO. 3

事業名	港湾改修事業		事業区間	地方港湾 福井港 坂井市三国町新保		
事業目的						
<p>福井港は、嶺北地域の産業を担う流通港およびテクノポート福井を支える工業港としての役割を担っており、平成28年の取り扱い貨物量は、約148万トンで、主にタンカーや貨物船が利用している。</p> <p>当港は、九頭竜川付近に位置するため、本港地区・三国港地区ともに冬季風波によって土砂が堆積しやすく、毎年、航路の浚渫を行っている。特に本港地区の中央航路は、南防波堤により毎年大量の砂が堆積し、平成24年2月6日には、貨物船の座礁事故も発生した。より安全な航路を確保するためには、航路内の埋没軽減対策を早急に行う必要がある。</p>						
全体事業内容						
北防砂堤延伸 L=600m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成25年度	-	平成26年度	平成34年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額（H29年度まで）	進捗率（H29末）	残事業費（H30以降残額）	備考
予 算 額		2,870,000	270,304	9.4%	2,599,696	
財 源 内 訳	国 庫	1,148,000	108,122		1,039,878	
	県 他	1,722,000	162,183		1,559,818	
費用対効果		1.64（総便益34.8億円 総費用21.3億円）				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに調査、設計を進め、平成26年度から工事に着手し、平成29年度までに防砂堤40m完成				
	H30以降残事業	今後引続き、防砂堤工事を進め、平成34年度の完成を目指す				
前回との比較	当初計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	20.0億円	28.7億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>防砂堤ができることによる周辺への影響調査に伴う増(0.4億円)</li> <li>労務費、資材費高騰、消費税増額等(8.3億円)</li> </ul>			
完成予定年度	平成30年度	平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>防砂堤ができることによる周辺への影響について、関係機関(海上保安署・地元漁協・船舶代理店等)との調整の結果、事業期間の4年延長が必要となった。</li> </ul>			
事業を休止した場合の影響						
<p>冬季風浪等により航路に土砂が堆積し、航路確保のための浚渫工事に毎年数億円の費用が必要となる暫定航路が改善されず、入港船舶に制限がかかり、船舶利用の増加が見込めない</p>						
備 考						

# 再 評 価 調 書

NO. 4

事業名	道路改良事業	事業区間	一般県道福井森田丸岡線 福井市寺前町～上野本町			
事業目的						
<p>一般県道福井森田丸岡線は、福井市街地と嶺北北部を結ぶ幹線道路である。本事業において、東西に流れる一級河川九頭竜川に新たな橋梁を設けることにより、周辺の既存道路(国道8号、主要地方道福井丸岡線等)における渡河部の交通渋滞を解消し、さらには、当該区間以北において福井港丸岡インター連絡道路と接続することで、福井市街地と嶺北北部間の広域的な道路網の形成を図ることを目的とする。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=1,550m(うち、新九頭竜橋(仮称)415m) 幅員 W=25.5m(12.75m×2)、4車線</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成16年度	平成26年度	平成26年度	平成34年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		15,500,000	7,481,524	48.3%	8,018,476	
財 源 内 訳	国 庫	8,315,503	3,821,339		4,494,164	
	県 他	7,184,497	3,660,185		3,524,312	
費用対効果		2.12(総便益481.8億円 総費用227.3億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまで現地測量や調査、設計、用地取得を進め、平成26年度から一般部の道路工事に、平成27年度から新九頭竜川橋(仮称)の下部工事に着手している。				
	H30以降残事業	今後引続き、新九頭竜川橋(仮称)の上部工事等を進め、平成34年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	120.0億円	155.0億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>橋梁の基準書改訂等に伴う設計変更増(13.8億円)</li> <li>労務費高騰、消費税増額等(21.2億円)</li> </ul>			
完成予定年度	平成32年度	平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路と並走する新幹線橋梁上部の架設時期との工程調整の結果、道路橋上部着手時期が遅れ、事業期間の2年延長が必要となった。</li> </ul>			
事業を休止した場合の影響						
<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の九頭竜川渡河部の交通渋滞が解消されない。</li> <li>福井港丸岡インター連絡道路に接続できず、福井市街地と嶺北北部間との広域的な道路網の形成を図ることができない。</li> </ul>						
備 考						

# 再評価調書

NO. 5

事業名	総合流域防災事業		事業区間	一級河川 八ヶ川(北川) 坂井市春江町針原～福井市川合鷺塚町		
事業目的						
<p>八ヶ川(北川)は、九頭竜川右岸に合流する河川およびその支川で、福井市と坂井市春江町の境界を流れる河川である。川の断面が狭く、近隣の住宅や農地において、たびたび冠水の被害が発生していることから、流下能力を現況の8m<sup>3</sup>/sから46m<sup>3</sup>/s(治水安全度1/2未満→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=2,660m 掘削護岸工 L=2,660m 橋梁架替 N=5橋</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成17年度	平成17年度	平成17年度	平成31年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		4,300,000	2,038,993	47.4%	2,261,007	
財 源 内 訳	国 庫	2,076,000	999,300	/	1,076,700	
	県 他	2,224,000	1,039,693		1,184,307	
費用対効果		1.66 (総便益86.7億円 総費用52.4億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに現地測量や調査、設計、用地取得を進め、下流から2,310mを暫定改修済み				
	H30以降残事業	今後引き続き、掘削護岸工、橋梁架替等を進め、平成36年度の完成を目指す				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	43.0億円	43.0億円	変更なし			
完成予定年度	平成31年度	平成36年度	地籍混乱による境界確定に不測の日数を要したため、事業期間の5年延長が必要になった。			
事業を休止した場合の影響						
<p>現況の流下能力は8m<sup>3</sup>/sと極端に低いため、事業を休止した場合、流域の住宅地の浸水被害を防げないことから、住民の生命と財産を守ることができなくなる。</p>						
備 考						

# 再評価調書

NO. 6

事業名	海岸侵食対策事業		事業区間	敦賀港海岸 縄間地区 敦賀市縄間地係		
事業目的						
敦賀港海岸縄間地区は、海岸線に沿って県道竹波立石縄間線が走り住宅が密集している。高波浪時の越波により県道の通行止めや住宅への被害が生じていることから、離岸堤を整備し被害の防止を図る。						
全体事業内容						
離岸堤L=405m(4基)、護岸L=540.9m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	昭和54年度	-	昭和54年度		平成37年度	
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		1,610,000	749,518	46.6%	860,482	
財 源 内 訳	国 庫	805,000	374,759		430,241	
	県 他	805,000	374,759		430,241	
費用対効果		1.34(総便益50.0億円 総費用37.3億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	昭和61年度までに、離岸堤2基と護岸540.9mの工事が完了している。 (1号離岸堤:昭和58年度完成、2号離岸堤:昭和61年度完成) 残る離岸堤2基のうち1基について、平成22年度から工事着手している。				
	H30以降残事業	今後引き続き、離岸堤工事を進め、平成37年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	12.3億円	16.1億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎捨石を流用石材から購入石材に変更(2.7億円)</li> <li>労務費高騰、消費税増額等(1.1億円)</li> </ul>			
完成予定年度	平成32年度	平成37年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元漁業や自然環境への影響を最小限に抑えるため、離岸堤2基の同時施工を取りやめたため、事業期間が5年延長となった。</li> </ul>			
事業を休止した場合の影響						
高波浪時に越波被害が発生し、住民生活に多大な影響を及ぼす恐れがある。						
備 考						

# 再評価調書

NO. 7

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	一級河川 一乗谷川 福井市安波賀町～西新町		
事業目的						
<p>一乗谷川は、一級河川足羽川の支川で、城戸内町集落のほか国の特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡を貫流する河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の30m<sup>3</sup>/sから160m<sup>3</sup>/s(治水安全度1/5→1/10)に高めることで、水害から住民の生命と財産および歴史遺産を守る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=2,300m 掘削護岸工 L=2,300m 橋梁架替 N=9橋</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度		完成予定年度	
	昭和63年度	平成4年度	平成5年度		平成33年度	
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		3,494,000	3,259,343	93.3%	234,657	
財 源 内 訳	国 庫	1,694,586	1,594,030		100,556	
	県 他	1,799,414	1,665,313		134,101	
費用対効果		1.21 (総便益78.1億円 総費用64.4億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに現地測量や調査、設計、用地取得を進め、1,900mを改修済み				
	H30以降残事業	今後引き続き、掘削護岸工等を進め、平成33年度の完成を目指す				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	34.0億円	34.9億円	労務費高騰、消費税増額等(0.9億円)			
完成予定年度	平成30年度	平成33年度	埋蔵文化財調査による関係機関との協議に不測の日数を要したため、事業期間が3年延長となった。			
事業を休止した場合の影響						
<p>事業区間には城戸内町集落、一乗小学校、主要地方道鯖江美山線、一乗谷朝倉氏遺跡等、重要施設が多数あり、今後、事業を休止した場合、住民生活上、また貴重な歴史遺産に対し、洪水に伴う大きな影響があり、安全性が確保できない。</p>						
備 考						

# 再評価調書

NO. 8

事業名	基幹河川改修事業	事業区間	一級河川 吉野瀬川 鯖江市鳥井～越前市広瀬町			
事業目的						
吉野瀬川は、一級河川日野川の支川で越前市街地を流れる河川である。 現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の150m <sup>3</sup> /sから320m <sup>3</sup> /s(治水安全度1/3→1/30)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守る。						
全体事業内容						
全体延長 L=3,560m 築堤護岸工 L=3,560m 橋梁架替 N=7橋 取水堰 N=2基 放水路 1箇所						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和57年度	昭和63年度	平成2年度	平成40年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		15,240,000	12,186,455	80.0%	3,053,545	
財 源 内 訳	国 庫	7,407,500	5,953,100		1,454,400	
	県 他	7,832,500	6,233,355		1,599,145	
費用対効果		7.09 (総便益1670.0億円 総費用235.7億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに現地測量や調査、設計、用地取得を進め、広瀬工区の530mおよび放水路1箇所等を改修済み				
	H30以降残事業	今後引き続き、築堤護岸工、橋梁架替等を進め、平成40年度の完成を目指す				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	150.0億円	152.4億円	放水路が完成し、関係者協議が整ったことによる整備区間(630m)の追加(2.4億円)			
完成予定年度	平成40年度	平成40年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、越前市の中心市街地の西端にあり、事業を休止した場合、住宅・学校・幹線道路等に対し、洪水に伴う被害が及ぶほか、地形的に流域外の鯖江市にも浸水が想定されることから、広い範囲で大きな影響があり安全性が確保できない。						
備 考						

# 再評価調書

NO. 9

事業名	基幹河川改修事業		事業区間	二級河川 井の口川 敦賀市櫛川～筋生野		
事業目的						
井の口川は、敦賀市西部市街地を流れ、敦賀湾に注ぐ二級河川である。現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の120m <sup>3</sup> /sから320m <sup>3</sup> /s(治水安全度1/2→1/50)に高めることで、水害から住民の生命と財産を守ることを目的とする。						
全体事業内容						
全体延長 L=4,700m 築堤護岸工 L=4,700m 橋梁架替 N=15橋 取水堰 N=3基						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和62年度	平成3年度	平成3年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		12,520,000	9,913,498	79.2%	2,606,502	
財 源 内 訳	国 庫	6,041,185	4,922,357	/	1,118,828	
	県 他	6,478,815	4,991,141		1,487,674	
費用対効果		2.77 (総便益739.9億円 総費用266.9億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに現地測量や調査、設計、用地取得を進め、河口から約2,500mを改修済み(河口から約800mについては河床掘削を残した暫定改修)				
	H30以降残事業	今後引き続き、暫定改修区間の河床掘削、築堤護岸工等を進め、平成35年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	125.2億円	125.2億円	・変更なし			
完成予定年度	平成30年度	平成35年度	・用地取得に不測の日数を要したため、事業期間の5年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
事業区間は、敦賀市街地に位置しており、流域内の木崎、沓見、栗野地区については近年の市街化が著しく、今後氾濫が発生した場合、市街地内の民家・病院・市役所および県道交通網に多大な影響があり安全性が確保できない。						
備 考						

# 再評価調書

NO. 10

事業名	総合流域防災事業		事業区間	二級河川 多田川 小浜市城内～多田		
事業目的						
<p>多田川は、小浜市中心市街地を流れ、小浜湾に注ぐ二級河川である。          現況の流下断面が不足していることから、流下能力を現況の58m<sup>3</sup>/sから195m<sup>3</sup>/s(治水安全度1/2→1/30)に高めることで、          水害から住民の生命と財産を守る。</p>						
全体事業内容						
<p>全体延長 L=3,169m          掘削護岸工 L=3,169m 橋梁架替 N=12橋</p>						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	昭和44年度	昭和44年度	昭和44年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		7,000,000	6,211,905	88.7%	788,095	
財 源 内 訳	国 庫	3,396,070	3,058,315	/	337,755	
	県 他	3,603,930	3,153,590		450,340	
費用対効果		9.33 (総便益2281.4億円 総費用244.5億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	これまでに現地測量や調査、設計、用地取得を進め、河口から約2,600mおよび舞鶴若狭自動車道と交差する区間約100mを改修済み				
	H30以降残事業	今後引き続き、掘削護岸工、橋梁架替等を進め、平成35年度の完成を目指す。				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	66.6億円	70.0億円	<p>土質調査の結果、護岸工および橋梁工の工法変更に伴う増(2.2億円)          ・労務費高騰、消費税増額等(1.2億円)</p>			
完成予定年度	平成30年度	平成35年度	<p>・用地取得に不測の日数を要したため、事業期間の5年延長が必要となった。</p>			
事業を休止した場合の影響						
<p>事業区間は小浜市街地であり、さらに上流の支川森川流域は急激な宅地開発が進んでいる。未改修区間においては浸水被害が多発しており、事業を休止した場合、洪水に伴い市街地の住宅および国道27号、県道などの広域交通網に被害が及ぶことで住民生活に大きな影響があり安全性が確保できない。</p>						
備 考						

# 再評価調書

NO. 11

事業名	福井駅付近連続立体交差事業	事業区間	JR北陸本線 他2線 福井市みのり1丁目～福井市開発			
事業目的						
福井市の中心市街地を東西に分断しているJR北陸本線とえちぜん鉄道を高架化することにより、踏切事故や交通渋滞の解消、鉄道をまたぐ市街地東西部の均衡ある発展を図る。						
全体事業内容						
JR北陸本線高架延長 3.3km えちぜん鉄道高架延長 3.0km 交差道路 27路線 高架側道 5路線 踏切除却 5箇所						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成4年度	平成4年度	平成8年度	平成31年度		
事業費（千円）		全体事業費	執行済み額 (H29年度まで)	進捗率 (H29末)	残事業費 (H30以降残額)	備考
予 算 額		68,800,000	67,500,323	98.1%	1,299,677	
財 源 内 訳	国 庫	31,315,830	30,620,371		695,459	
	県 他	37,484,170	36,879,952		604,218	
費用対効果		1.02(総便益1,088.4億円 総費用1,070.6億円)				
事業の進捗状況	H29までの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度にJR北陸本線の高架切替を行い、3箇所の踏切除却が完了</li> <li>平成27年9月から、えちぜん鉄道は新幹線高架を利用した仮線運行を開始、これにより宝永踏切と日之出踏切での踏切除却が完了</li> <li>高架橋工事が完成し、駅舎の建築工事や線路、電気などの設備工事を進めている</li> </ul>				
	H30以降残事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年夏頃の高架化完成を目指すとともに、新幹線事業に影響が出ないよう仮線の撤去を行う</li> <li>仮線の撤去後、交差道路の整備を行う</li> </ul>				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	683.0億円	688.0億円	・労務費、資材費高騰等(5.0億円)			
完成予定年度	平成30年度	平成31年度	・交差道路整備箇所の用地取得に不測の日数を要したため、事業期間の1年延長が必要となった。			
事業を休止した場合の影響						
現在、新幹線高架を利用した仮線運行を行っているため、新幹線事業に影響が出ないよう仮線を撤去する必要がある。事業休止となった場合、仮線撤去が出来なくなり新幹線事業に影響が出る。また、交差道路の整備や踏切撤去が出来なくなるため、交通の円滑化や東西市街地の一体化など事業効果が発現出来なくなる。						
備 考						